

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2023年度 助成者)

作成日 2023年9月9日

氏名 (フリガナ)	加藤 堇 (カトウスミレ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2023年8月14日 (月) ~ 8月19日 (土)
大学名	名古屋大学
学年	5年

私は国際社会で活躍できる医師になるための英語力とプレゼンテーション能力を養うことを目標に今回のプログラムに応募させていただきました。短い期間ではありましたが、自分が想像していた以上に濃密で充実した5日間を過ごすことができ、多くの刺激と学びを得ることができました。

今回の研修は英語での病歴問診と症例発表の重点的なトレーニングを中心に行われました。今まで医学英語に触れた経験が少なく最初はとても不安でしたが、初めは日本人学生どうしペアを組んで、次に現地のハワイ大学の医学生とというように段階的に何度も問診練習を積むことで徐々に慣れ、鑑別疾患を意識しながら系統立てて病歴聴取ができるようになりました。問診で得られた情報を簡潔にまとめてアセスメントや鑑別疾患を交え、ハワイ大学の先生方の前で症例紹介をする練習も大変有意義でした。先生方から頂いたフィードバックを踏まえ、次の問診と症例発表に生かしていくというサイクルを何度も繰り返すことで、より効率的で簡潔に症例をまとめられるようになり、成長を自分でも実感することができ嬉しかったです。

今回の研修ではハワイ大学のキャンパスツアーや問診練習等現地の学生との交流も多くあり、彼らの医学を学ぶ姿勢からも多くの刺激を受けました。彼らは普段から実践的で臨床現場を意識した学習をしており、知識量も豊富で鑑別疾患を次々と挙げていました。先生からの問いかけに対し、我先にと手をあげ間違いを恐れず堂々と自分の意見を述べている姿をみて、自分と大きな差を感じ衝撃を受けました。正直なところ普段の受け身中心の医学教育のみでは、国際交流の場において積極的に意見を述べ、対等に議論する力を身につけるのは難しいと感じました。今回現地を訪れ海外の学生がどのような教育を受けているのか、直接見て知ることができたのは大変有意義だったと思います。今回の経験を通じて間違えることを恐れて自分の考えを述べないことのもったいなさを知り、アウトプットの大切さを身に染みて実感することができました。

このプログラムには日本全国の様々な大学から学生が参加しており、海外志向が強く高いモチベーションを持った医学生との出会いもとても刺激的でかけがえのないものでした。レクチャーの内容が難しく挫けそうな時もルームメイトが夜遅くまで復習や問診練習に付き合ってくれたり、レジデントとして海外で働こうと目標を高く持つ友人たちと今後の進路について語り合ったりと忘れられない思い出ができました。将来またお互いに成長した姿で再会できることを夢見て自分も日々努力していきたいと思っています。

私自身来年度に海外での臨床実習を控えており、今回のプログラムを通して今の自分に何が足りていないかを明瞭化することができ、今後何を勉強していくべきなのか方針を定めることができました。5日間という短い期間の中でも、日本国内では決して経験することのできない大変貴重な経験をさせていただきました。プログラムの間手厚くサポートしてくださいました東海大学および Hawaii Tokai International College の先生方、この研修参加をご支援くださいました日本医学医療交流財団の皆様、本プログラムに関わった全ての方々にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。